

子どもと衣服

幼児と服

—園服再考—



入江礼子

園服というと、我が家の長女、長男が入園の日を迎えた時のことが思い起こされる。二人共、H幼稚園に入園したのであるが、この園には御仕着の園服は一枚しかない。薄茶色の前ボタンの簡単なものである。長女が入園するまでは、それは御仕着ではなく、母親がスモックを時間的、技術的に縫えないという場合にのみ、それを求めるというようになっていたようである。それが御仕着になったのは、母親

側からの要望で、写真などを撮る特別の行事の日には、揃っていた方が良いということかららしい。事の善悪はさておき、そのようになってから長女は入園したのである。もちろん一枚のスモックでは足りないもので、残りは手作りのものが望ましいとされていた。あまりにもシンプルな御仕着のスモックには、子ども達への目印を兼ねて、刺繍、或いはアップリケなど、どこか一ヶ所手を加えて欲しいという

のが園側の要望であった。

私は、長女のスマックの胸ヨークの回りに簡単な刺繍をした。本人の大好きなピンクの糸を主体にして。私から離れるのが不安げな彼女にとっても、そういう不安をかかえた子を送り出す私にとっても、

その刺繍は、私自身の分身のようなものであった。

彼女はそれによって守られ、私もまた彼女をそれで守るといふような……。それから私は二枚のスマックを手作りした。一枚はやはりうすピンクの花柄。

これは長女と共に選んだものであり、もう一枚はうす紫の花柄であった。こちらの方は、特に彼女が気に入ったというわけではなかったのだが、家にあつた生地だったので作ったのである。そのスマックは、ヨークのまわりに白のレースの簡単な飾りをつけた。洋裁が特別得意ではない私の、これが彼女にしてあげられる最大のことであった。彼女はそのレースが気に入り、入園式後は、後者の二枚のスマックをとっかえひっかえ着て行くようになった。特に

入園当初の不安な時、母の作った服に身を固めて出るといふことは、母に包まれて出て行くことにつながるし、母の方にも包んで出すという気持ちがある。母親が服を作るといふことには、こういう意味も含まれると思うのである。

今、一年生となった長女は、年長の末、「このスマック、もうきついよ。」とよく言っていた。「あと一ヶ月だから我慢してちょうだい。」という私の言葉に不満そうに口をとがらしていた。しかし卒園してそれが本当にいらなくなった時、私がもうボロボロになったし捨てようかと言うと、「いやだよ、これは遊ぶ時に使うんだもん！」と言って、サッサと自分の机の引き出しの奥にしまってしまったのである。或る時期自分を守ってくれたスマックは、それが用を終えた時、やはり捨てがたかったのである。

次に長男の場合。彼の入園式に着ていったスモックには、彼がブルーと並んで好きな色であるグリーンのパイアステープを胸から背中にかけてのヨークのところにつけた。ところが彼は、「これ、手のところのゴムがきつくて、僕、着ていくのやだよ。遊べないもん。」と言うのである。幼稚園とは、お友達が沢山いて遊ぶところだというイメージを確固ともっていた彼には、母がいくら好きな手で手を加えても、園服を着ること自体が気に入らなかつたのである。彼にとつては、そんな型に入らなかつたって幼稚園で充分に遊べるのである。ゴムのあるスモックなんて、むしろ邪魔だったし、自然な気持ちで遊ぶ気にはならなくなってしまう代物だったのであろう。

「どうしてもイヤなら、幼稚園で遊ぶ時は脱いでもいいのよ。」と言うと、やっとしきつと納得して、袖を通したのである。入園式が終つてかえつてきた彼は、「あーあ、今日はいっぱい座っちゃったなあ」と呟いた。幼稚園とはそんなに座つてばかりのこ

ろじゃないというのが彼の持論なのである。

その彼のもう一枚のスモックは、姉の着た御仕着のスモックである。そのスモックのピンクの刺繍の上から、彼の大好きなブルーを基調にしたチロリアンテープを貼つた。長女はそのスモックを本当に行事の日以外は着ていかなかったので、私の作つた二枚のスモックがポロポロになつたのに比べて、ちゃんと綺麗だったのである。彼はこちらが気に入る。どちらかというところ、こちらの方を着ていきたい。夏になり袖なしのスモックに衣更になつた。彼は、長女の時に作つた黄色い生地、青いクマさんの模様のあるスモックをすんなりと気に入る、これを着ていつている。

もう一枚お古でいただいた水色の無地のスモックがあるのだが、この方は、どうしてもイヤといつて着ない。理由を聞くと、「だって僕のしるしがついてないんだもん」と言う。私は、それを聞いてなるほどと思つた。長袖のスモックはたとえお古であつ

ても、丘の氣に入った何かがついていた。しかしいくら好きなブルーでも自分の印のついていないものは着ないという。よほど女の子っぽいものでなければ、着るものに対してさして文句を言う方ではない長男も、スモックには自分らしさを求めたようである。入園式当日に、スモックを拒否したのは、その型にはまることへのささやかな抵抗だったのではないかとさえ思うのである。「遊ぶ子ども」そのものである彼は、そういう園服に代表される何か得体の知れない粹やら儀式性を拒否したといっても過言ではないと思う。

* * *

さて我が子のことから、ちょっぴり目を転じて、私の目に入る近くの幼稚園の園服のことにふれてみたいと思う。

U幼稚園は、遠足で潮干刈りに行った。その日、子ども達は皆、白半袖に緑のズボンの園服に身を固

めていた。母親の一人が、「体操服も持っていかなきゃならないから荷物が大変なのよ。」と言う。「どうして体操服を、はじめから着ていけないの？」「だって記念写真をとるでしょう。その時体操服じゃあちょっとあんまりでしょう。」私は、それを聞いて言葉を失った。写真だけのためにそんなことをするのかと……。そろっていなかつたらみつともないのだと言う親の声に、何か釈然としないものを覚えた。

次にM幼稚園、ここは、お行儀ということを重ね、じ女の子の親には人気の高い幼稚園である。紺色のズボンやスカートに身を固めた子ども達を見て、こういうものを着て、果たして彼らがドロドロになって遊ぶ気を起こすのだろうかと疑問に思うようになった。長男ではないが、何やら窮屈で遊べないという気がするのではないかと思うのである。まあ、それが園の目的であるかもしれないのだが……。

それとI幼稚園。これは甥の行っている公立の幼

幼稚園である。ここは、園に着くと、着ていった園服を体操服に着がえ、帰る時には又園服に着がえるのを日課にしているという。着がえという日常基本動作をきっちりと身につけさせるというのが園側のねらいであるらしい。しかし、である。甥は、それがいやで、家でのぐずりが増え、幼稚園に行きたがらなくなってしまう。それまで普通であった朝の着がえにも手間どるようになり、更には、朝、園服を着ないといつてぐずるようになってしまった。帰宅すればしたで今度は園服を脱がないといつて義妹を困らせていたのである。この頃、我が家の長男が喜んで幼稚園に行っていたので、本当に気の毒でならなかった。

幼稚園の園服のありようは、その幼稚園の在りよう全体を象徴しているように私には思える。もし、子どもが遊ぶ人そのものであるということ深く認識している園であれば、その歯止めになってしまうような園服は採用しないはずであると思う。

U幼稚園の場合、そこに子どもを入れている親も、園側も、おそらく建前とか見栄えというようなものを大事にして、子ども達は、そもそも一斉にそろわないものであるという本質を、隠すべきもの、みっともないものとして排除しているように思える。又、M幼稚園、ここもきっちりとした園服を採用した時点で、先にも述べたように、ドロコンになつて遊ぶ子どもの姿に代表される子ども像を本質的には拒否したのだと思うのである。最後にI幼稚園は、子どもが幼稚園に行きたくないと思うほどの着がえについてどう考えているのだろうか。確かに自分のことが自分で出来るというのは、とても大切なことであると私も思う。しかし子どもが、それが原因で幼稚園に行きたくないと思うほど、重点に置くのは如何なるものであろうか。もしも、園が思いきり遊べるようにと体操服なるものを採用したのであれば、その気持ちを萎えさせるような着がえ指導は少々矛盾するように思えるのだが……。

私の場合は、たまたま、そうきつちりとした園服のない園に子ども達を入園させた。この稿を起こすまでは、そのことについて取り立てて考えていなかったのであるが、これを書き終えようとする今思うことは、子どもがよく遊ぶように心掛けている幼稚園として選んだ園服としては当然そういうものになるのだなということである。又、その園ですら親の要望で、たとえ一枚であっても御仕着の園服を選定したということには、何か考えさせられるものがある。親とは、このように子どもを型にはめたがる存在なのであろうか。

一人の子どもの好み、在りようで選ばれる服は様々である。同じきょうだいでも全く好みは違う。経済の許す範囲で、それを尊重してあげたいと思うのは、私だけであらうか。こういうことは家庭で着る服に止まらず、園服と同様ではないだろうか。子どもたちは砂場で砂にまみれ、ドロッコを好み、汗をかいて走り回り、大人の何倍も活発に動き回る存

在である。そのような存在がそのまま認められず、園服という型にはめて吸収していくのが大かたの幼稚園の姿であらう。親も幼稚園も、これでよしとする風潮は、子ども本来の姿を認めていない姿勢に通ずるといっても過言ではあるまい。今ある幼稚園は、ほんとうに子どもたちにとって楽しいものであるのだろうか。園服のことを色々と考えていくうちに、ふと私の心にそのような思いがよぎったのである。

*

*

*